

第3回 選挙区及び定数に関する在り方調査会 概要

日時：令和元年12月9日（月）14時00分～16時00分
場所：都道府県会館4階407会議室（東京都千代田区平河町2-6-3）
出席委員：（8名）金井利之座長、磯崎初仁委員、岩崎美紀子委員、大橋正春委員、
加藤一彦委員、高橋秀禎委員、谷口尚子委員、原田大樹委員
出席者：中嶋年規議長、（事務局）袖岡静馬政策法務監、川合将之主任
傍聴者：1名

1 現地調査の報告について

資料に基づき、事務局から現地調査の概要について報告を行った後、委員間で意見交換がされた。

委員からは主に次のような趣旨の発言があった。

なお、今後、北部地域への現地調査又は調査会の場における北部地域の関係者へのヒアリングを行う方向で調整を行うこととされた。

- ・南部地域の広さや地勢を実感した。平地が比較的少なく、山間部に集落が散在している印象を受け、地理的な制約があると感じた。
- ・各調査先では、県の執行部との関わりは積極的にあるとの印象を受けた。そのような中で、合議体である県議会がどのような役割を果たしていくべきかということをあらためて考えていく必要性を感じた。
- ・職員や首長同士での県と市町とのつながりや市町と地元選出県議会議員とのつながりはあるように思えたが、県と市町の議会同士のつながりはあまりないと感じた。
- ・北部地域への現地調査を行うなど、北部の状況も調査する必要性を感じた。

2 調査

「人口減少・地方創生時代における県議会の在り方や果たすべき役割について」の論点整理について

はじめに事務局から、前回調査会における委員意見の整理に関する資料の説明を行ったのち、「人口減少・地方創生時代における県議会の在り方や果たすべき役割について」の論点整理について、協議が行われた。

委員からは、主に次のような趣旨の発言があった。

- ・地域代表としての役割については、法制度上と実態上の両面から、どのように考えることができるのかを議論する必要があるのではないかと。
- ・議会は、地域を代表するだけでなく、性別・年代・職業など、多面的な

属性を代表する機関であるから、そういった視点からの議論も必要ではないか。

- ・議会における民意の吸上げや反映について考えたときには、議会に住民を招いて意見を聴く場を設けることや、地域において議会を開催するなど、選挙制度上からだけではなく、議会運営上から考えられることもあるのではないか。
- ・人口減少自体よりも、人口格差（人口の都市集中）が、選挙区にどのような影響を与えるのかが重要な論点と感じている。
- ・市町の役割の補完は、市町間での補完（水平補完）もあり、必ずしも県による補完（垂直補完）だけとは限らないので、両方を念頭に置くべきである。
- ・人口減少により生じる課題やその対応には様々な考え方があり、どのような論点を設定するのかについては留意する必要がある。

3 その他

次回の調査会については、1月30日（木）14時から都道府県会館で開催する予定であることが報告された。